

おひさま通信

恒例の仲間の意思決定支援

～ 80歳 繁子さんの
望む生活とは～

サンライズ

はじめに

繁子さんは今年で80歳を迎えました。太陽の里での生活を経て「地域で暮らしたい」という願いからサンライズでの生活が始まり、その後は現在までサンフラワーで暮らしています。日中は長年にわたり「にじ」(みぬま福祉会の通所施設)を利用してきました。みぬま福祉会との関りも30年以上に及び、多くの仲間や職員との関係を築いてきたレジェンドのひとりです。



ここ数年で、サンライズでも仲間の高齢化により生活に変化が見られています。そんなときに大切にしていることは、自分で選択できるような働きかけていくことです。繁子さんが新たな日中活動の場を決めていくまでの過程を通して、本人が望む生活に必要な支援を報告します。

繁子さんに芽生えた新たな想い

80歳目前にして、若い仲間との年齢差や体力面での違いを感じるようになりしました。「にじ」では長年親しんできた仲間や職員がおり、大切な居場所である一方で「今の自分にとって本当に過ごしやすい場所なのだろうか」と感じるが増えていったようです。

そんな中、同じホームで暮らす仲間や友人が高齢者デイサービスを利用していることを知り「どんな所だろう、楽しそうだな」と興味を持つようになりしました。特に、サンフラワーと一緒に生活していた仲間が楽しそうに通所している姿を見て、自分自身の生活や将来について考えるきっかけとなったように感じました。さらに、高齢による体調の変化や『迷走神経反射』と呼ばれる症状が見られるようになり、これまで通りの日中活動が続けられるかという不安



も抱くようになりしました。「自分に合った日中活動とは何か」を主体的に考え始めるようになりました。

繁子さんに生まれた新たな想いと向き合うために、サンライズ内ではどうすれば本人の気持ちをはっきりするのか考えました。まず、本人の本当の気持ちを知るために、高齢の情報整理し、本人に分かりやすく伝えることから始めました。実際にデイサービスの見学や体験を通して高齢サービスについて知り、本人が自分の想いや願いを、具体的にイメージできるように取り組みました。また、

介護認定の取得についても「あと50年は生きる」と豪語している方なので、高齢になることへの抵抗感や不安もありましたが、一緒に考えていく中で丁寧な受け止めることができました。

悩み葛藤する繁子さん

繁子さんの気持ちは常に揺れ動いていました。「にじ」には長年の思い出があり、自分を理解してくれる仲間や職員がいます。そのため「にじを離れたくない」という想いがある一方で、高齢者デイサービス体験を重ねていくと「楽しかった」「デイサービスで友だちができた」と話してくれました。同年代の同じペースで時間や活動を共有し、楽しむことができる友達ができただけで、本人の気持ちや抱えていた不安は、本人の気持ちを感じています。そして「また行きたい」と希望を話してくれるようになりしました。繁子さんは悩みながらも様々な経験を通して考えを整理し、自分なりの希望を見つけていったように思います。

自分らしく生活していくために

その後、関係してきた職員が集まり、今後について話し合いを重ねました。そこでは「どちらのサービスを利用すべきか」という支援者中心の議論



ではなく「繁子さんはどのような暮らしを望んでいるのか」を中心に考えました。また「デイサービスに通つたら「にじ」の仲間や職員と会えなくなるのではないか」という不安に對して、新しい事業所に通うことになったからといって、「にじ」との繋がりが切れるわけではないということも丁寧に伝えました。

話し合いを重ねる中で「にじを卒業します」と話すようになりました。この言葉は悩み、迷い、多くの経験を重ねたことでたどり着いた本人の意思でした。

おわりに

今回の取り組みは、「障害福祉介護福祉か」という制度の問題ではなく「本人が誰とどんな場所でのどのような生活を望んでいるのか」という視点から、支援を組み立てたことに大きな意味があったと考えます。本人が望む生活は、本人に代わって誰かが見つけることではなく、本人が悩み、迷いながらも自分で選択できるような支えることではないかと思えます。そのためには、職員が本人の想いの変化を丁寧に受け止め、考える時間と経験する機会を持てるような支援をしていくことが大切だと考えています。

現在、繁子さんは週4日高齢者デイサービスに通いながら生活しています。「今日は誰がいるかな」「友だちができたよ」「外食に行ったよ」と楽しそうに話す姿が見られ、新しい日中生活を楽しく送っています。また、「にじ」との関係も、遊びに行ったり、親しい職員と交流したりと、大切な居場所の一つとして繋がっています。新しい生活となっても、本人が築いてきた社会や人間関係を今後も大切にしながら、楽しい生活を送ってもらえるように支援していければと思っています。

サンライズ職員 深見 龍一

響き

大地

6月11日、大地運動会が開催されました。ウォーカーに乗って一生懸命進む姿、玉入れでは受け渡しカゴに入れていく連携プレーなど、日頃のリハビリの成果や生活の中で大切にされている動作が随所にみられました。真剣な表情や大きな笑顔が溢れる運動会となりました。

久喜市地域活動支援センターたいよう

この時期らしくない寒暖差で、体調を崩す人が続出しました。服装の調整が大変で、テレビやラジオでウェザーニューースが流れると明日の天気よりも明日の気温を気にしていました。「もうさ、暑いのか寒いのかよくわかんねえよ」ととした時間にボヤいた仲間の声に、皆大きく頷いていました。

川口太陽の家

今年も健康診断の時期がやって来ました。ふれあい生協病院のスタッフの皆さんの配慮や協力と、仲間たちの頑張りで、皆が無事に受けることができました。毎年の積み重ねの大切さを実感できる場面が多く見られました。

太陽の里

男女混合棟の解消をするため、5月22日に新棟北と新棟2階のお引越をしました。引越し前に新しい生活の場でのメンバーでご飯を食べたり、お茶会をしたりとコミュニケーションを何回も実施しました。

そして、仲間たちはスムーズに新しい環境に慣れました。これからも仲間の願いや思いを尊重しながら、安心できる暮らし作りを目指していきます。

白岡太陽の家にじ

6月の土曜開所日に「自然に触れあおう」というテーマで、北本市にある自然学習センターへ行ってきました。自然に生息する動物の標本や野鳥ウォッチなど自然に触れあいながら、敷地内を散策したりと楽しい一日を過ごしました。自然の空気を感じる良い活動日となりました。

来月は、どこに行こうかな?と仲間と相談しあいながら、「にじ」にもどりました。

